

令和6年度KOBEm里山SDGs活動支援補助金制度 採択事業一覧

2024.7.26

神戸農政公社作成

【一般枠】

	申請者	補助事業の名称	事業内容
1	神戸オリーブ園	神戸オリーブ園交流事業	市民と一体となったオリーブ栽培を目指し、生産者・消費者をつなぐことで地域の活性化を図る。
2	KOBE NOURISM	地域活動家の連携を通じた里山地域の活性化	里山をテーマにしたイベントを継続的に開催することで、地域全体での発信・ブランド力向上を目指す。
3	淡河町地域振興推進協議会	地域資源を活用した都市と農村の交流事業	道の駅淡河から淡河城跡にかけて鯉のぼりを掲揚し、新たな風物詩として地域の活性化を目指す。
4	KERORI GARDEN	里山再生事業	拠点周辺の耕作放棄地を含めた山林を整備し、野菜・花・果樹の栽培を行う。
5	大沢有馬山椒部会	有馬山椒体験農場開園	一般の方が来園しやすい場所に有馬山椒の体験農園を設置し、有馬山椒のPRと生産量の増加を図る。

【特別枠】

	申請者	補助事業の名称	事業内容
1	一般社団法人 農サイド	有機農業者スタートアップ支援事業	有機農業者の新規就農に係る技術指導に加えて、農業関連作業を提供することで就農初期の資金的な支援も含めたスタートアップ支援を実施する。
2	棟長 正昭	特定農地貸付法に基づくユニバーサル市民農園の開設事業	年齢や障害の有無に関係なく、また、多世代の多様な利用者が不安を感じることなく、農業体験ができるよう配慮し整備した「ユニバーサル農園」を開設する。
3	東須磨底曳会サーモン部会	神戸元気サーモン養殖事業	灘の酒蔵と連携し、酒粕を浸透させた飼料でサーモンの養殖することで、ご当地サーモンとしての特色を出し、ブランド化に繋げる。
4	すまうら水産有限責任事業組合	神戸ワインサーモン養殖事業	神戸ワインぶどうの搾りかすを配合したペレット飼料を用いてサーモンの養殖することで、ご当地サーモンとしての特色を出し、ブランド化に繋げる。
5	吉田 昭	持続可能な次世代の農業と農村の在り方。無農薬での穀物栽培を、生産から販売まで、全てを都市部との合同作業で結び、生産、加工、消費までを分業ではなく、共創で、責任感と持続性を共有する生産スタイルの確立。	SNSや農業体験会、マルシェでの販売、味噌・醤油・黒糖づくりを通じて、持続可能な農村の実現を目指す。
6	淡河松森医院跡みらい会議	SDGs 淡河お試しオフィス《ワークinレジデンスIII》	ヌフ松森医院敷地内の倉庫を、アーティストが作品制作の可能な体験設備として整備し、将来、淡河町や農村地区において、移住や2拠点生活してもらえるような拠点にする。
7	一般社団法人 さとのわ	さとのわ養蜂研究所における昆虫食の研究	養蜂業界で捨てられてしまう「雄蜂の子」を食用品として活用し、商品化を目指す。
8	NPO法人 リベルタ学舎	放置竹林および耕作困難農地をフィールドとしたSDGs実践コミュニティ運営事業	放置竹林や耕作放棄地を畑として整備し、長粒種米の作付けを行い、将来的にはカレーのレシピを開発し、マルシェや神戸市ふるさと納税の仕組みを通して販売を目指す。
9	特定非営利活動法人 須磨ユニバーサルビーチプロジェクト	Minato Farm タケノコメンマキムチ プロジェクト	神戸市西区の農地において運営中のユニバーサルデザインの農園にて、野菜の栽培、メンマの商品開発の本格化のほか、朝市やファーマーズマーケットでの出店、就労支援として商品販売を行う。
10	株式会社Smart You	淡河どぶろくプロジェクト	淡河町で栽培した山田錦などから「どぶろく」を製造することで、淡河町の新たな地場産品にすることを目的とする。
11	KOBE CRAFT WORKS	竹のプレーパークづくりと輝夜祭（かぐやまつり）の開催	放置竹林や耕作放棄地を、キャンプ場・プレーパークとして整備・運営することで、地域内外の子供たちが里山の自然に触れながら運動できる場として、地域活性化を図る。
12	株式会社 素木 (HATA+BE+)	都市と農村の交流事業	遊休農地を活用し、都市と農村の交流や国際交流が出来る田畑を整備するほか、西神中央駅からの電動自転車でのアクセス整備を実施する。
13	NPO法人 Pinion Gear	北区山田町の里山保全活動と木質ペレット化チャレンジ事業	里山保全活動にて地域と里山をつなぐ活動をすると同時に、発生した間伐材を用いた木質ペレット化の実験や、キャンプ場において、燃料やバイオトイレのおが屑の代替品などといったペレットの活用方法を模索する。
14	稲垣将幸	「ゴミから肥料へ: 農家と珈琲店が連携し、コーヒーカス堆肥で耕作放棄地の活用」事業	神戸市西区の珈琲店からコーヒーカスを回収し、コーヒーカスの堆肥化の拡大のほか、その堆肥を、開墾予定の耕作放棄地で利用し農作物の栽培を目指す。